

公益財団法人文京アカデミー

経 営 計 画

〈計画年度:令和4年度～令和8年度〉

令和4年3月

公益財団法人 文京アカデミー

経営計画

目次

序章 新たな飛躍に向けて

～公益財団法人文京アカデミーの事業・組織強化に向けた取組み～	1
--------------------------------	---

1 経営計画の策定にあたって	1
2 経営計画の位置付けと計画期間	1
3 文京区アカデミー推進計画との関係	1

第1章 経営の理念

1 豊かな区民生活の形成への取組み	2
2 「公益」の実現と、公益財団法人文京アカデミーならではの事業展開	2
3 文化芸術・生涯学習の拠点としての機能	3
4 自立した組織運営と安定した財団経営	3

第2章 響きの森文京公会堂の事業展開

～共感・協働・そして新たな創造へ～	4
-------------------	---

1 ホールの強みを活かした創造・発信力の強化	4
2 共生社会への取組み	6
3 提携団体との連携による事業の一層の充実と深化	7

第3章 豊かな学びと交流を生み出すまちの実現に向けて

～地域へ、そして「学び・学びあう循環」の構築へ～	9
--------------------------	---

1 多彩な講座展開による充実した学習環境の構築	9
2 生涯学習団体等の支援、地域コミュニティの振興	11

第4章 安全、快適な利用環境の提供

1 利用者に寄り添った案内業務の実践	12
2 施設の魅力を向上するために	13
3 災害・危機管理対策の充実に向けて	14

第5章 組織、経営基盤の強化への取組み

1 財団経営の強化	16
2 要員計画の策定と、適切な人事評価	17
3 多様な働き方や職場環境の整備	18
4 戦略的広報・CIの確立による財団評価の向上	19

序章 新たな飛躍に向けて

～公益財団法人文京アカデミーの事業・組織強化に向けた取り組み～

1 経営計画の策定にあたって

公益財団法人文京アカデミーは、昭和 61 年に文京区的全額出資法人である文京区地域振興サービス公社として設立されて以来、36 年にわたり、区民施設の管理運営を事業基盤とし、文京区における地域社会の発展と豊かな区民生活の形成に寄与することを目的として様々な区民サービスを担ってきました。

平成 23 年 4 月には公益財団法人としての認定を受け、文化芸術、生涯学習、そして地域コミュニティの振興等の公益目的事業を担う公益財団法人として新たにスタートしました。

また、公益法人化とあわせて、平成 21 年には経営改革プランを策定し、公益目的を担うにふさわしい法人となるべく組織・事業改革に着手し、令和 3 年度までに一定の成果を上げてまいりました。

この間、平成 24 年の劇場法施行や、令和 2 年から現在に引続く新型コロナウイルスの感染問題など、事業環境に大きな変化がありました。

そこで「平成 29 年度版経営計画」の進捗状況等を踏まえて、財団の事業基盤を強化し、事業環境の変化に対応しながら公益目的事業のさらなる充実と公益の実現に向けた取り組みをするため、新たに経営計画を策定するものです。

2 経営計画の位置付けと計画期間

本経営計画は、公益財団法人文京アカデミーの経営理念と事業スキームを明確にするとともに、今後の事業展開に向けた課題を整理し、向こう 5 年間の取り組みを示すものです。

3 文京区アカデミー推進計画との関係

「文京区アカデミー推進計画（令和 4 年 3 月策定）」では、「区内まるごとキャンパスに」の考え方を基本理念として踏襲しています。また、計画の推進に当たっては、「人 誰もが楽しみ交流できる視点」、「環境づくり いつでも・どこでも活動できる視点」、「資源活用 区の魅力や特性を活かす視点」の 3 つの視点を重視しています。

本計画は、「文京区アカデミー推進計画」の理念や視点を共有し、文化芸術の振興、生涯学習の推進及びコミュニティの形成に向けた多様な価値観を理解しあう豊かで持続可能な社会へつなぐ取り組みを示すものとなっています。

第1章 経営の理念

【経営理念】

- 文京区の文化芸術・生涯学習事業の発信、継承、創造に努めるとともに、人々の絆を形成する拠点となり、地域社会の発展と豊かな区民生活の形成に取り組みます。
- 区の全額出資法人及び公益財団法人として公益の実現を目指し、公益法人としてのメリットを活かし、成果を広く社会に還元します。
- 自立した組織運営と安定した財団経営を進めます。

1 豊かな区民生活の形成への取組み

当財団は、コミュニティの育成、文化芸術の振興及び生涯学習の推進に寄与し、もって地域社会の発展と豊かな区民生活の形成に資することを目的として設立された公益法人です。前身の「文京区地域振興サービス公社」以来、36年にわたり区行政を補完しながら地域の発展と豊かな区民生活の実現に取り組んできました。

これまでの実績と経験を踏まえ、一層の区民サービスの向上と積極的な事業展開をすることにより当財団に課せられた責任を果たし、区民の期待に応えてまいります。

2 「公益」の実現と、公益財団法人文京アカデミーならではの事業展開

当財団は、区の全額出資法人として、また公益法人として、公益目的事業を実施することを使命としています。

区の出資法人であり、公益法人であるメリットを活かしながら、当財団ならではの事業展開を図って公益を最大限に実現していくことに、その存在意義があると考えます。

(1) 「公益」を実現する事業運営

良質な文化芸術を鑑賞しやすい価格で多くの方々に提供すること、アウトリーチ事業等による身近な生活環境の中で質の高い文化芸術に触れる機会を提供すること、区民自らが主体的に創造活動に参加する機会を提供することなど、様々な手法により、地域の方々が文化芸術に触れ、自ら創造活動に参加する機会を創出します。今後も税優遇などの公益財団法人としてのメリットを活かし、鑑賞しやすいチケット料金の設定をしていきます。

また、生涯学習分野では、多様な学習機会を提供するとともに、活動拠点の利便性を高め、学習活動を行う団体を支援するほか、支援する人材の育成や区民が自ら企画する取組みの事業化など、多角的な取組みにより生涯学習事業を推進します。

(2) 豊かな事業資産と運営実績

当財団は、区とともに「東京フィルハーモニー交響楽団」「鼓童」「シエナ・ウインド・オーケストラ」「牧阿佐美バレエ団」の4つの芸術団体と事業提携し、響きの森文京公

会堂（シビックホール）の中核事業として音楽系と舞台芸術系のバランスのとれた事業展開を行っています。これらの事業実績は当財団の大きな資産となっています。

また、こうした取組みの結果、自治体が設置する多目的の公会堂でありながら、音楽・芸術ホールとしても非常に高い評価を得ています。

(3) 区との連携・協力

当財団は、区との緊密な連携・協力のもとに区からの派遣職員である管理職及び係長と固有職員が共働して事業展開をしており、民間事業者としての発想を活かしながら、区の文化施策を効果的、機動的に遂行します。

(4) 公益法人のメリットを活かした経営

公益法人として引き続き法令等を遵守し、適切な事業運営及び会計処理を行うとともに、公益法人に対する税優遇等のメリットを活かして効率的な運営に努め、その成果を区民に還元し、地域の福祉の向上に努めます。

3 文化芸術・生涯学習の拠点としての機能

平成24年に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（劇場法）に基づく国の指針では、劇場等の設置者、運営者に対して、「地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える」ため、質の高い事業の実施や人材育成、普及啓発等の事業の実施を求めています。地域コミュニティの振興を図り、地域社会の発展を支えていくためには、地域や関係団体との柔軟かつ機能的な結び付き（協働・連携）による多角的な事業展開が重要となります。

指定管理施設であるシビックホールやアカデミー文京は、区における文化芸術・生涯学習活動の中核施設として位置づけられており、情報を発信し、人々が集い、創造性を育み、絆を形成する場として機能するよう、関係団体・地域社会の協働、連携を一層取り組んでいかなければなりません。当財団と区民、地域社会がともに成熟し、相互発展とより充実したレベルでの協働関係を築くことにより、さらにステップアップした文化芸術環境が醸成されるものと考えます。

4 自立した組織運営と安定した財団経営

当財団は、公益法人会計基準を遵守した適切な事業運営をしており、過去4年間の経常収支比率は92%～102%で推移し、安定した経営を確保しています。当財団は、公益法人として、また区の出資法人としての使命を果たし、区民に貢献するため、より一層充実した事業展開と機能的で効率的な運営を進めることが求められています。その実現に向けて、今後とも当財団が自立した組織として安定した経営基盤を確立していくことが不可欠となります。

第2章 響きの森文京公会堂の事業展開

～共感・協働・そして新たな創造へ～

【経営目標】

- 地域の文化拠点として、地域の人々が良質な文化芸術に触れられるよう、創造、発信を行います。
- 地域の人々が、自ら文化芸術に関わることができる場を提供し、交流や創造の場となることを目指します。
- 地域の課題を受け止め、年代やライフスタイルの違い、障がいの有無等にかかわらず、社会参加の機会拡充に取り組み、文化芸術の振興を図ります。
- 提携4団体との協働等により、地域の人々と文化芸術をつなぎ、芸術文化にかかわる人を育てます。

1 ホールの強みを活かした創造・発信力の強化～良質な文化芸術事業の展開～

(1)現状

大ホールでは財団主催事業として、国内外の一流オーケストラやアーティストによる公演をはじめとした音楽、バレエ、歌舞伎や狂言等の伝統芸能といった舞台芸術を来場者が鑑賞しやすい価格で数多く実施し、「良質な文化芸術を発信するホール」として実績を重ねています。また、小ホールでは区民参加型・交流型事業や子ども向け公演、落語等、それぞれのホールの特性を活かしたメリハリのある事業を展開しています。どちらも区民が身近で気軽に鑑賞・参加できるホールとして定着しています。また、他の実演芸術団体の事業を共催・後援することにより、良質で文化芸術性の高い事業をより効率的に提供しています。

(2)課題

大ホールは、クラシックコンサートだけではなく、吹奏楽、バレエ、伝統芸能等、多彩なジャンルの公演を開催するホールとしての認知度が上がっています。また小ホールは、区民が活動発表等で利用する施設としても定着しています。このような中で、これまで以上に高い芸術性と地域性をあわせ持った「良質な文化芸術を発信するホール」として、区民の誇れる文化芸術ホールを目指していくことが求められています。また、来場者のすそ野を拡大し、より多くの方に文化芸術に触れていただくためにも、収支のバランスを保ちながら、適切な価格設定での公演を実施していくことが課題です。

共催・後援事業については、財団の自主事業を補完し、広く区民に還元できる事業等、ホールの発信力を高める事業を誘致・開催することが必要です。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

これまで当財団は、シビックホール大ホール・小ホールを利用し、多彩なジャンルの公演を開催してきました。文化芸術事業を通じ、上質な「出会いと感動」を提供することにより、シビックホールが区民にかけがえのない財産、誇りとなることを目指します。「発信」「交流」「育成（支援）」を事業の柱とし、それぞれのコンセプトを相互に連携させることで、シビックホールが持つポテンシャルを最大限に発揮して事業を展開します。

- ① 地域の文化拠点として、芸術性の高い公演やオンリーワン事業等、良質な実演芸術を提供していきます。
- ② 実演芸術を鑑賞しやすい適切な価格設定で提供するとともに、誰もが身近なものとして鑑賞できる機会を提供していきます。
- ③ 実演芸術団体との協働・連携を強化し、アーティストとの交流を通じて、鑑賞だけでなく実体験としての文化芸術を発信していきます。
- ④ 効率のかつ積極的な経営により安定した財源を確保し、良質の文化芸術の提供を通じて区民に還元していきます。
- ⑤ シビックホールのコンセプトに沿った事業を共催・後援することにより、文化芸術の発信拠点としての役割を強化します。

【事業概要】

- ・国内外の一流オーケストラ、アーティストの招聘
- ・響きの森クラシック・シリーズ
- ・夜クラシック
- ・響きの森きつずプログラム
- ・文京シビック寄席
- ・鼓童交流公演&ワークショップ
- ・昼クラシック
- ・共催及び後援事業における良質な公演等の開催・誘致

【計画・目標】

- ・響きの森クラシック・シリーズの内容を充実させると共に、セット券販売方法を見直し、新たな顧客の獲得と定着を図り、ホールのファン層の拡大を図ります。
- ・高齢者のみならず、新たな層へのアピールにつながる新事業を企画するとともに、購入しやすいチケット価格や販売方法について検討します。
- ・共催及び後援事業においても、ホール事業のコンセプトに沿ったバランスのとれた多彩な公演を開催・誘致していきます。

2 共生社会への取組み ～区民参加による文化育成事業とアウトリーチ事業の充実～

(1) 現状

区民が主体的・継続的に舞台芸術活動に取組み、発表する場をつくっています。区民参加オペラ、区民参加演劇では、受講生が一定期間、専門の講師による講習を経てホール公演を行い、成果を発表しています。各事業はともに、区民が主体的に本格的な舞台芸術を体験することにより、創造性を育む取組みとして定着し、講習を通じて受講生同士の交流も生まれています。

また、提携団体との協働による和太鼓、吹奏楽、バレエのワークショップを開催することにより、小・中学生や親子等が自ら文化芸術活動に参加する機会を提供しています。

アウトリーチ事業としては、小・中学生を対象とした出前コンサートや区立中学校吹奏楽部の演奏指導、幼稚園でのバレエワークショップを行ってきました。さらに、普段、ホールに出向く機会の少ない方々にも、プロの演奏を間近で鑑賞することにより、文化芸術を身近に感じ親しんでいただくことができるよう、区内の文化施設等でのミニコンサートにも取り組んでいます。

新型コロナウイルスの拡大を契機に、動画配信にも取組み、いつでも、どこでも、なたでも芸術文化に触れる機会を提供しています。

(2) 課題

区民参加事業として、大ホールではオペラ、小ホールでは演劇を、それぞれ1事業ずつ実施しています。文化芸術活動に参加する区民のすそ野をさらに広げるためにも、一定の期間で事業内容の見直しが求められています。今後は、さらに多くの人々が文化芸術活動に参加することができるよう、現在の事業の見直しについて検討します。

アウトリーチ事業では、主として小・中学生等若年層中心に事業を実施してきましたが、今後はその対象をさらに広げ、特に高齢者、障がい者、子育て中の方等を含め、ホールに出向くことが困難な方々等、より多くの人々が身近に文化芸術に触れることができ、自らも文化芸術の創造的活動に参加できる機会を充実していくことが求められます。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

主体的に文化芸術活動に参加し、自ら創造し、発信していくことは、人と人とのつながりを生み、生活を豊かにしていきます。文化芸術の領域において、誰でも、いつでも、どこでも必要に応じて当財団の発信する情報にアクセスでき、事業に参加でき、創造的な活動を行えるような環境づくりを目指していきます。

- ①性別や年齢、置かれた状況に関わらず、誰もが創造的な活動に自ら参加することができる機会を提供します。
- ②事業を契機とした「場」に集う人たちの世代間の交流を促し、新たなコミュニティを形成する力としていきます。

③文化芸術活動のすそ野を広げ、優れた鑑賞者を育てるとともに実演家を育てる環境を醸成していきます。

④区民が、身近なところで良質の文化芸術に触れることのできる環境を提供します。

【事業概要】

- ・舞台芸術創造事業
(大ホール：区民オペラ)
(小ホール：演劇、朗読劇等)
- ・鼓童交流公演及びワークショップ
- ・吹奏楽支援事業（シエナ de アンコン&レッスン、中学生のための吹奏楽クリニック、吹奏楽 3up プロジェクト、すい部にエール！コンサート等）
- ・親子で楽しむバレエワークショップ
- ・カレッジコンサート
- ・福祉、医療、教育、子育て等の区所管課及び関係団体との連携による文化芸術事業（響きの森アーツキャラバン、アーティスト・イン・音楽室等）
- ・小中学校出前コンサート（東京フィルハーモニー交響楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ、鼓童）
- ・コミュニティコンサート
- ・シビックコンサート
- ・動画配信事業

【目標・計画】

- ・演劇事業を見直し、自己表現を実現するための新たな区民参加事業を実施します。
- ・区民が気軽に文化芸術に参加するきっかけづくりを継続的に行っていきます。
- ・区および地域関係団体との連携により、高齢者、障がい者、子育て中の方等、ホールに出向くことが難しい方々を対象としたミニコンサートやアウトリーチ事業を実施します。
- ・リモートコンサート等、今後の動画配信事業について検討します。
- ・提携団体と連携し、学校の吹奏楽部や吹奏楽サークル等の技術的向上と振興を図っていきます。

3 提携団体との連携による事業の一層の充実と深化

(1) 現状

これまで当財団は、4つの実演芸術団体「東京フィルハーモニー交響楽団」「シエナ・ウインド・オーケストラ」「鼓童」「牧阿佐美バレエ団」との提携により、文化芸術の振興と発展を目的として様々なジャンルの事業を展開してきました。

また、各団体との良好な関係性に裏付けされた共催公演等の事業実績は、シビックホールの音楽・芸術ホールとしての評価を高めるとともに、当財団が誇る大きな資産となっています。

(2) 課題

各提携団体は、様々な提携事業を実施する当財団の重要なパートナーです。

今後は大・小ホールでの鑑賞事業をはじめとして、アウトリーチ事業やワークショップ等、それぞれの団体の特性を最大限に活かした事業プログラムを構築していくことが必要です。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

管弦楽、吹奏楽、和太鼓、バレエと、異なる分野で活躍している国内一流の実演団体との提携であることを踏まえ、協働・連携事業をさらに深化させ、鑑賞事業だけでなく区民との交流や演奏・実演指導等を通じて、地域に根付いた文化芸術活動となることを目指します。

- ① 各分野のバランスのとれた公演事業により、シビックホールへの高い評価を確立していきます。
- ② ワークショップ、アウトリーチ事業等の積極的な展開により、人材育成や交流事業を進めます。
- ③ アーティストと身近に接触し、交流することにより、人々に様々な刺激を与え、将来の鑑賞者や実演者等が育つ契機とするほか、層の厚い文化芸術社会の実現に寄与していきます。

【事業概要】

- ・ 響きの森クラシック・シリーズ（東京フィルハーモニー交響楽団）
- ・ 響きの森きつずプログラムシリーズ
（東京フィルハーモニー交響楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ）
- ・ 小・中学校出前コンサート
（東京フィルハーモニー交響楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ、鼓童）
- ・ 鼓童交流公演&ワークショップ（鼓童）
- ・ 楽器演奏指導、アンサンブルコンテスト（シエナ・ウインド・オーケストラ）
- ・ 鑑賞教室、バックステージツアー等、バレエ関連事業（牧阿佐美バレエ団） 等

【目標・計画】

- ・ 鑑賞事業やアウトリーチ事業のほか、ワークショップやバレエ鑑賞教室等、提携団体ならではの密度の濃いプログラムを実施します。

第3章 豊かな学びと交流を生み出すまちの実現に向けて

～地域へ、そして「学び・学びあう循環」の構築へ～

【経営目標】

- 生涯学習支援者や区内大学等とのネットワークを通じた自立した学習環境の形成を目指します。
- 「人材発掘、育成、活動機会の提供」の循環システムの構築を目指します。
- 生涯学習を通じた区民の自立・自助・社会参加を支援します。
- 地域アカデミーを、地域コミュニティの拠点として充実します。

1 多彩な講座展開による充実した学習環境の構築

(1) 現状

当財団ではこれまで、区内大学、民間教育機関との連携や生涯学習支援者（文の京生涯学習司¹、文の京地域文化インタープリター²及び文京アカデミアサポーター³）との協働により、文京アカデミア講座をはじめとする各種講座等の充実に努め、文京学など文京区ならではの講座や、幅広い分野に及ぶバラエティに富んだ講座等の生涯学習事業を実施しています。

また、生涯学習支援者との連携、活動機会の提供に努め、生涯学習支援者の企画による各種講座や講演会を拡充する等、区民との協働による生涯学習事業を展開しています。

(2) 課題

文京区ならではの生涯学習の仕組みを作り、一定の成果を上げていますが、今後、活動に参加する生涯学習支援者が固定化しないよう、支援者の活躍の場や、生涯学習支援者の企画講座など、様々な企画者による質の高い講座を拡充して、若い人材の発掘、育成等新しい人材の掘り起しが必要です。

また、新型コロナウイルス感染拡大を契機として、オンラインによる学習機会や時機をとらえた魅力ある講座を提供することで、新たな受講者の獲得に努めていく必要があります。

¹ 文の京生涯学習司 生涯学習に関する一定の知識とスキルを習得し、生涯学習事業を企画・調整できる地域のリーダーとして文京区が認定した人

² 文の京地域文化インタープリター 地域文化の価値を理解するために必要な知識や技術を習得した文京区の文化資源の案内役として文京区が認定した人

³ 文京アカデミアサポーター 講座の運営を支援するために、基礎知識を習得し、生涯学習等に貢献する人

(3) 取組み

【事業コンセプト】

多様な講座展開と、関係団体等との連携・協働、情報提供、相談事業などの総合的な生涯学習環境を整備し、いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、一人ひとりのニーズに応じた生涯学習活動を支援します。

また、講座等で学んだ人が、自分が主体となって学習の成果を他の人に伝え、さらに多くの人に絆が広がる、学び、学びあえる循環を創りだしていくことを目指します。

- ① ニーズや社会環境の変化に応じた柔軟で文化創造的な講座を展開します。
- ② 区や大学等と連携し、生涯学習に関与する「人材発掘・育成・活動機会の提供」の循環システムを構築することにより、学びあえる重層的な生涯学習環境を充実させます。
- ③ ライフスタイルや障がいの有無等、区民一人ひとりの状況に応じて、いつでも、だれでも自分にあった学習や活動の場を選択できる機会を提供します。

【事業概要】

- ・ 文京アカデミア講座ほか、区民、大学など様々な企画者や手法による多彩な講座展開
- ・ 学習しやすい環境づくり（オンラインによる講座の拡充、保育サービス、手話サービス、開設日程や時間のバリエーション）
- ・ 協働、連携のためのネットワーク形成（生涯学習支援者連絡会、区内大学生涯学習担当者会議）
- ・ 生涯学習相談窓口の運営
- ・ 生涯学習支援者の育成、スキルアップ、活動の場の拡充

【計画・目標】

- ・ 生涯学習支援者による講座企画を拡充するため、生涯学習支援者が講座を提案しやすくするための仕組みを整備します。
- ・ また、生涯学習支援者の養成講座やスキルアップ講座等について魅力的なカリキュラム編成を行います。
- ・ 区民プロデュース講座について、これまでの実績を検証し、新たな仕組みの導入を検討します。
- ・ ウィズコロナ・ポストコロナの時代を見据え、様々な学びのニーズに対応できるよう、オンライン講座を拡充します。その際、誰もが自分の状況に応じた学習に取り組めるよう、習熟度や興味関心に応じた支援を行います。
- ・ LINE公式アカウントの開設など、紙媒体以外の広報ツールを拡充します。

2 生涯学習団体等の支援、地域コミュニティの振興

(1) 現状

生涯学習を区民に紹介する場、学びの成果を発表する場、各地域アカデミーで活動する団体の学びの成果を発表する場として、「文京アカデミー生涯学習フェア」を開催しています。

さらに、地域コミュニティの育成と生涯学習活動の支援を目的として、「地域アカデミー体験教室ウィーク」を開催しています。

(2) 課題

文京アカデミー生涯学習フェア及び地域アカデミー体験教室ウィークは、参加団体、来場者とも多く盛況ですが、更なる地域コミュニティの活性化や新しい人材の掘り起こしにつなげていく必要があります。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

生涯学習講座等への参加を促すだけでなく、そこに参加した人が継続して積極的な活動ができ、新たな絆を結んでいけるよう支援します。

また、そうした支援を地域アカデミーまで広げることで、各地域アカデミーを拠点としたコミュニティの輪が広がることを期待します。

- ① 生涯学習事業を周知し、生涯学習団体等の活動を支援するため、日頃の活動の成果を発表・展示する場を提供します。
- ② 各地域アカデミーを地域における生涯学習の拠点とし、そこに集う生涯学習団体の活動の支援等を通じて、地域コミュニティの振興を図ります。
- ③ 地域の課題に向きあい、これまで財団が培ってきた地域関係団体との結びつきを活かして、地域の連携・協働を推進し、共生社会の実現を目指します。

【事業概要】

- ・生涯学習フェア
- ・地域アカデミー体験教室ウィーク
- ・地域の魅力再発見事業

【計画・目標】

- ・体験教室ウィークについて、PRの強化や他の事業との連携により、来場者数及び参加団体数の拡充を図ります。
- ・各地域アカデミーで活動する団体紹介を、館内掲示からホームページへと情報提供の場を広げます。

第4章 安全、快適な利用環境の提供

【経営目標】

- 利用者に寄り添った案内業務を実践します。
- 施設の魅力を高め、利用率を向上します。
- 災害事例等を踏まえ、災害・危機管理対策の充実を目指します。

1 利用者に寄り添った案内業務の実践

(1) 現状

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「新しい生活様式」の実践や「持続可能な開発目標 SDGs」の採択など、社会情勢が大きく変化するなか、利用者対応の最前線である窓口サービスについても変化が求められています。

(2) 課題

性別・国籍・障害の有無や子どもから高齢者といった年代の違い等、利用者の多様性に応じたサービスの提供が課題となっています。

また、利用者の要望に応え、顧客満足度を得ていくためには、窓口業務委託者を含むスタッフ自身が各種スキルの向上に取り組み、利用者に寄り添った対応を提供することが必要となります。

さらに、施設予約ネットシステムが、令和4年1月に更新されたことに伴い、利用者への丁寧なサポートを図っていく必要があります。

(3) 取り組み

【事業コンセプト】

- ①性別・国籍・障害の有無や子どもから高齢者といった年代の違い等、多様なニーズに対応できる環境を提供します。
- ②専門的な知識を習得し、より細かなニーズに対応できる体制を目指します。
- ③新施設予約ネットシステムの稼働に伴い、利用者へのサポートを充実します。

【事業概要】

- ・パンフレットの多言語化
- ・案内図の多言語標記
- ・コミュニケーションボードの作成
- ・スキルアップ専門研修の実施
- ・新施設予約ネットシステムの利用者対応マニュアルの作成

【計画・目標】

- ・利用者の多様性に応じたサービスを提供するため、パンフレットの多言語化や施設案内板への多言語表示等を進めます。

- ・舞台設備に関する知識や茶道、華道等のマナーを習得し、利用者に還元するため、各種研修を実施します。
- ・係内に窓口業務委託者を含めた予約ネットシステムサポートPTを組織し、新施設予約ネットシステム利用者対応マニュアルの検討を進めます。

2 施設の魅力を向上するために

(1) 現状

地域アカデミーでは、長期休館後に利用団体が他施設に活動拠点を移すケースや団体を解散するケースが見受けられ、利用団体数の減少による利用率の低下が認められます。

また、毎月実施する抽選においても、抽選申込件数が少ない施設や時間帯が複数あり、以前と比較して、抽選参加者が減少しています。

(2) 課題

スカイホール、アカデミー文京、地域アカデミーでは、利用者の多様性に対応するため、利用者の使い勝手を考慮した利用方法の見直しなどを検討する必要があります。

また、地域アカデミーで活動する団体を増やすためには、利用者の利便性を向上することや活動環境を整備することなど、利用団体が活動を継続していけるように支援を行っていく必要があります。

さらに、楽器などの付帯設備についても、利用者の要望等を踏まえた見直しなど、施設の魅力を増やしていくことが課題と捉えています。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

- ①各施設における利用目的の見直しや利用者の活動支援を通じて、利用率の向上を目指します。
- ②利用団体への積極的な支援を通じて、定期利用団体を増やします。
- ③付帯設備のうち楽器類については、利用者要望等を踏まえ新たな楽器を導入するほか、老朽化した楽器を更新していきます。

【事業概要】

- ・利用目的等の見直しによる活動環境の整備
- ・利用団体紹介記事のスクエア掲載及び財団ホームページ内に地域アカデミー活動団体の紹介コーナー新設
- ・楽器類の取得計画の作成

【計画・目標】

- ・利用団体等の意見を踏まえ、各施設の利用目的などを見直し、利用団体に寄り添った施設運営を行っていきます。
- ・利用団体について、スクエアに団体紹介を掲載したり、ホームページ内に利用団体の紹介コーナーを新設したりするなど、利用団体の活動を支援する環境を整えていきます。

・備品更新計画を作成し、古くなった楽器の更新や導入希望が多い楽器の調達を計画的に行っていきます。

3 災害・危機管理対策の充実に向けて

(1) 現状

シビックホール等指定管理施設全体では、1日当たり平均2,500人の利用者があり、シビックセンター内の施設として、区と連携しながら利用者に安心して、安全に施設を利用いただくことを最優先するとともに、公立文化施設協会等の基準による安全対策を行っています。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策について、区と協力し「文京区事業継続計画」に基づき、発生段階に応じて施設の利用制限・休止等を実施するとともに、利用者へは電話・ホームページ・SNS等による連絡周知を行っています。

(2) 課題

最大1,800人を収容する大ホールや、高齢者が多く利用するアカデミー施設等、設備や利用状況が異なる多数の施設を運営しているため、事故対応等について、それぞれの施設の利用状況や利用者の態様に応じたきめ細やかな対応が求められています。

また、感染症対策では、国が示した「新しい生活様式」のもと、感染状況等に応じ利用者及び主催者の安全を確保するための方策について、適宜区と連携のうえ実施していくことが必要です。

さらに、地震や水害などの災害発生時に利用者の安全管理に必要な災害情報の収集は、区との連携が必要不可欠であり、文京区との災害協定が締結後10年を経過したことから、見直しを行っていくことが課題となっています。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

- ①緊急時に適切な判断を行い、利用者の安全確保に配慮した行動ができる職員を育成します。
- ②地震や水害などの災害事例を踏まえ、備蓄品の充実を図ります。
- ③感染症対策については、国・都及び区の方策を踏まえるとともに、公立文化施設協会等の示すガイドラインに則り、利用者の安全を第一に施設運営を行ってまいります。
- ④発災時の区との連携を強化します。

【事業概要】

- ・緊急対応や防災知識の向上
- ・災害事例の検討と備蓄物資の見直し
- ・安全な施設運営と利用者への周知の徹底
- ・区との連携強化

【計画・目標】

- ・窓口業務委託者等を含めた関係者が、防災知識を向上するため、防災教育や避難訓練等を実施する外、地域アカデミーにおける初動態勢を整備します。
- ・東日本大震災や熊本地震等の教訓を参考に、利用者の安全管理を踏まえ、備蓄物資を見直します。
- ・感染症対策について、利用者への注意喚起や感染状況に応じた対策等を確実かつ迅速に行い、利用者が安心して利用できる環境を整備します。
- ・区の地域防災計画や災害時受援応援計画等を考慮し、災害協定の見直しを含め、区との連携を強化します。

第5章 組織、経営基盤の強化への取組み

【経営目標】

- 公益法人としての適正な事業運営と自己財源確保の強化等、戦略的な資金運用を推進し、安定した経営基盤を目指します。
- 中長期的な要員計画の策定と、適切な人事評価制度を構築します。
- 多様化する働き方や、適切な職場環境を整備します。
- シビックホールの認知度を高め、「芸術ホールのあるまち」を演出することで、地域における賑わいの施設を目指します。

1 財団経営の強化

(1) 現状

当財団の社会的な信用の維持・向上のために、公益法人会計基準を適正にクリアした会計処理と、経営の公益性、透明性のある財務報告を着実にを行っています。さらに、年度途中の収支状況を把握し、収支状況をより客観的に把握できるよう努めています。

また、事業に対する各種補助金や助成金の獲得に努め、一定の成果を上げています。

(2) 課題

当財団は、文京区と連携したサービスを提供することで、実績と信用を高めてきましたが、財政面では文京区からの指定管理料や補助金、施設の利用料収入が大半を占めています。実績をあげてきた現行の取組みを基本としつつ、当財団がより一層の魅力ある事業を継続していくためにも、寄附金の受入れや協賛の獲得など新たな資金調達の仕組みを整えることが課題となっています。

また、保有する財産を有効活用するため、戦略的・計画的な資金運用や、財務分析を行い、財務状況を客観的に把握し、問題点を見つけ、改善していくことも今後の課題です。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

国や民間の補助金の活用をはじめ、寄付などの自己財源の確保にも努めるとともに、効果的な資金運用や財務状況を把握して、事業の活性化、経営基盤の強化、安定化を図ります。

【事業概要】

- ・ 特定費用準備資金の制度活用等により事業の活性化を図り、経営基盤の強化に努めます。
- ・ 各種補助金の調達、寄付等の資金確保の可能性を検討します。

【計画・目標】

- ・税務知識を有する専門家の活用を図ります。
- ・公益法人会計に精通した職員を育成します。
- ・優れた舞台芸術等の事業を安定して提供できるよう、また、お客様に評価される事業を実施するためにも、多様な財源確保に取り組めます。

2 要員計画の策定と、適切な人事評価

(1) 現状

文京区からの派遣職員の段階的な引き上げ、新規固有職員の継続的な獲得などにより、自立した組織の構築に向けた取り組みを推進してきました。また、業務能力と経営感覚に優れた職員を育成し、公益目的事業を担う事のできる組織体質作りにも注力しています。

(2) 課題

的確な職員配置や、専門的なスキルを持った職員の育成、経営戦略を踏まえた計画的な新規職員を採用し、組織の強化を図っていく必要があります。あわせて、当財団がより自立した組織となるため、事業部門については固有職員の係長職等の登用など、人材の活用などを検討していきます。

また、「やる気」「やりがい」を自らが創出できるような環境づくりと、それを適切に評価し給与へ反映できる人事評価制度の構築が必要となります。

(3) 取り組み

【事業コンセプト】

- ① 現行の取り組みを基本にしつつ、職員育成のための実践的な研修の実施、人事制度全般について強化を図ります。
- ② 職員が、職務に対し働きがいをもって、意欲的に取り組むことができるよう、適切な人事評価の整備にも取り組んでいきます。

【事業概要】

- ・適格な職員就業規則の整備と人事評価制度の見直しを図り、職員のモチベーションを高める人事評価・給与制度の構築を進めます。
- ・計画的な職員配置や異動により当財団を担う職員の育成を強化します。

【計画・目標】

- ・固有職員から係長等への登用や職員育成など、将来を見据えた人事制度の確立を図っていきます。
- ・やる気のある職員を適切に処遇できるよう人事評価・給与制度を整備します。

3 多様な働き方や職場環境の整備

(1) 現状

働き方改革の一環として多様で柔軟な働き方に対する関心が高まっている中、当財団では新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、テレワークや時差出勤の導入を実施いたしました。

また、健康診断やストレスチェックによる健康への配慮、ハラスメントの研修や労働時間の管理による職場環境への配慮を行っています。

(2) 課題

様々な生活環境を持った職員一人ひとりが将来への展望を持ち、能力を存分に発揮できるよう、職員のライフワークに配慮した働き方や職場環境の整備が今後の課題となっています。あわせて、多様な働き方にも対応できるような休暇制度の確立と健康面でも職員をサポートできる福利厚生制度も課題となっています。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

- ① 時代によって変わるライフスタイルに対応した働き方の選択肢が可能な限り増やせるように、休暇制度を設定し、ペーパーレスや押印省略などデジタル化を取り入れ、仕事の効率性を上げ、多様な働き方に対応できるように取り組んでいきます。
- ② 労働時間の適正な管理や、職員へ過度なストレスを抱えないようメンタルサポートを実施するなど、安全で安心な職場環境を整備していきます。
- ③ 職員が、職務に対し働き甲斐をもって、意欲的に取り組むことができるよう、適切な福利厚生制度の整備に取り組んでいきます。

【事業概要】

- ・職員のライフワークに配慮した働き方に柔軟に対応できる体制づくり
- ・可能な範囲でデジタル化を取り入れ、更なる仕事効率性を高める取り組みの検討
- ・メンタルヘルス対策とサポート体制の構築の検討

【計画・目標】

- ・安全で安心な働きがいのある職場環境の整備を図ります。
- ・当財団のビジョンを職員へ明確に伝え、目標達成に向かって職員が一丸となって協力し合える組織風土を醸成します。

4 戦略的広報・CI(コーポレート・アイデンティティ)の確立による財団評価の向上

(1) 現状

ツイッター、フェイスブック、動画配信など多様なソーシャルメディアによる情報発信ツールを導入したほか、これまで同様に情報紙「スクエア」や新聞、雑誌、チラシやパンフレットなどの紙媒体も使い、様々な手法で地域文化の担い手である財団とその事業の周知を図っています。

(2) 課題

各事業の魅力を発信する手段として、各種メディアを効果的に使い分けることが求められます。引き続き、情報紙「スクエア」の充実と、広報機能の強化を図って導入した多様なソーシャルメディアについて、更新頻度の向上や情報の充実と、各世代に対する発信力の強化が必要です。

(3) 取組み

【事業コンセプト】

ホールイメージを確立することは、チケットの販売や良質の実演団体を誘致するうえで極めて重要です。シビックホールは、都内でも有数のグレード感を持つと同時に、文化芸術を気軽に楽しめるホールであり、グレード感と親しみやすさをあわせ持つホールというイメージの浸透を図る必要があります。

そのために利用者に「伝わる広報」を目指し、様々な媒体を駆使し利用促進につながる広報を展開し、ホール事業についてのイメージを発信し定着させていきます。

- ① SNSを活用して、利用者が知りたい情報をタイムリーにわかりやすく発信し、身近で親しみを感じるホールを目指します。
- ② 良質の実演団体の招聘や誘致により、高品質の文化芸術を提供していることの認知度を向上させるためPRを強化します。
- ③ 情報内容や情報提供の頻度、量、新鮮さなどについて付加価値の高い情報を発信します。
- ④ 戦略的広報の視点をもって、各種情報媒体を機能的、有機的に活用します。

【事業概要】

- ・情報紙「スクエア」の紙面構成や特集記事の検討
- ・目的の情報にアクセスしやすく、わかりやすいホームページへの改修
- ・SNSを活用し、利用者の知りたい最新情報をタイムリーに発信
- ・周辺地区と連携した事業展開を図り、地域とのコミュニティづくり

【計画・目標】

- ・利用者の満足感と関心度を高める多様な媒体を用いた重層的なPR活動を展開します。
- ・各事業・各施設などの利用促進につながる広報を検討します。

公益財団法人文京アカデミー

経 営 計 画

〈計画年度：令和4年度～令和8年度〉

発行 令和4年3月

編集発行 公益財団法人文京アカデミー

電 話 03-5803-1102